

事業所名

発達支援センタージョイナス(放課後等デイサービス)

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

10 日

法人(事業所)理念		地域で生活する全ての一人一人が“かけがえのない存在”として自分の選択を実現し、笑顔で生活できるよう福祉サービスの提供に努めて参ります							
支援方針		①お子さま1人1人に合った専門的療育メニューの提供 ②専門性の高い個別対応メニューの提案(小グループクラス・就学準備クラス等を除く) ③専門的小グループメニューの実践(国家資格者作成の専門性の高いプログラム/メニュー表のお渡し/毎月毎の見学及び解説会/ご家庭での実践サポート) ④保護者様への丁寧なサポート体制及び地域連携の重視 ⑤将来の自立・自律を見据えた支援							
営業時間		10 14	時 0	分から 12 18	時 0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	①持病や特性の把握(特性に応じた環境設定や対応/緊急時対応について保護者と情報を共有/研修の実施) ②健康状態の把握(来所持の検温・本人を視診・保護者からの聞き取り) ③療育環境の整備(視覚的表示・療育の流れの構造化など) ④健康状態に応じた個別対応及び保護者様との連携(通所開始時の聞き取り→救急隊員への申し送り状作成→てんかん発作など個別対応)							
	運動・感覚	①個々のお子さまの感覚特性の把握・対応(感覚過敏・感覚鈍麻・聴覚過敏など) ②姿勢・体幹・バランス感覚の把握・向上に向けた支援/安全に過ごすことへの意識付け及び実践 ③粗大運動・微細運動能力の把握・向上に向けた支援 ④感覚統合を進める(ボディイメージの保持/前庭感覚・固有感覚・触覚・嗅覚・温冷感覚等を高める) ⑤視機能向上の為にビジョントレーニングの実施(机上+小グループ+パソコン+ビジョントレーニングマシン/定期的に機能を視覚表示して進歩を確認)							
	認知・行動	①個々のお子さまの認知・行動の偏りや特性の把握 ②行動や認知の偏り等に合った支援(例:視覚優位のお子さまに効果的視覚表示を多用して支援を行うなど) ③基本的認知概念の習得及び応用(大小・形・色弁別・形・重さ・順番・重い軽い等/児童発達支援で習得した内容をより幅広く深く習得) ④外部環境・対象の正確な認知と適切な行動への支援(※対人関係支援に重点:例:距離感の習得ほか/例:大声で耳をふさぐ→リアクションの工夫)							
	言語 コミュニケーション	①自分・他者・第三者の的確な理解(適切な行動や言葉遣いを意識できるよう支援を行う/就労・入所を意識して必要なスキルを習得していく) ②言葉・コミュニケーション能力の向上(発展学習→嫌な気持ちや体調不良などネガティブなことについて気持ちのコントロール及び伝え方) ③読み書き能力向上の為に支援(読み書き困難や図形の把握の苦手さ等の支援→専門機関の紹介/困難特性に応じたきめ細かい支援/英語学習のフォロー等) ④集団の前で伝える技術や発表するスキルを習得する							
	人間関係 社会性	①アタッチメントの形成・集団遊びの支援(児童の時期に習得が十分でない場合) ②園や学校などでのよりスムーズな集団参加の為に支援 ③ソーシャルスキルトレーニングによる支援(教材による共同学習/園や学校での出来事を振り返る中での社会性の習得→どうしたら良かったかな?など) ④兄弟関係・親子関係・友達関係など具体的なシチュエーションや場面での社会性向上の為に支援							
家族支援		①療育送迎時の申し送り ②子育てサポートを通じた家族支援 ③参観や個人面談時の支援				移行支援		①移行予定先と援助方針や支援内容等の共有 ②進学・就労に向けた移行支援の実施 →本人・保護者の希望に沿った支援を行う	
地域支援・地域連携		①相談支援事業所・並行通所事業所との緊密な連携 ②教育機関(園・学校・学童等)との緊密な連携 ③医療機関・保健所・子ども家庭センター・児童相談所等との緊密な連携 ④保育所等訪問支援を通してのより緊密な連携				職員の質の向上		①計画的な内部研修・外部研修の実施 →年間参加目標回数を設定 ②専門職・外部講師による研修の実施 ③東京都や区が主催する研修への積極的参加	
主な行事等		①イベント:5月(こどもの日)8月(夏祭り・料理教室)10月(ハロウィン)12月(クリスマス会)1月(書初め・抹茶体験)3月(卒業・進学・就職を祝う会) ②祝日:ビジョントレーニング・料理教室など(小学生以上は“生きる力の向上”の為に、調理実習を重視) ③保護者参観(GW・夏休み・年末などフルタイム勤務の保護者が参加しやすい時期に実施)							